



## Newsletter No.85

2020年11月5日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

# コロナを吹き飛ばせ！レイバーフェスタ 2020

## —あなたの怒りと希望を表現しよう—

2020年はコロナ禍一色の年になりました。アベスガの無策が状況を悪化させ、「非正規・女性・外国人」をはじめ、はたらくものの雇用不安・生活不安は深刻です。さあこれからどうするか？ やはり声をあげなければ始まらない。はたらくものの文化祭「レイバーフェスタ」で、あなたも「見て・聴いて・歌って」一緒に表現しませんか。

イベントが軒並み中止になった今年ですが、レイバーネットもコロナの影響で、今回初めて夏の「レイバー

映画祭」を中止しました。でも年末のレイバーフェスタは12月26日（土）田町交通ビル6Fホールで、感染対策もして開催したいと思います。日本初公開の『雄叫び—気候変動へのたたかい』をはじめ、音楽では希望の多い川口真由美さんが初出演します。そして、会場参加がむずかしい人のために、映画を含めたオンライン中継を行うことにしました。ぜひ地方や海外の方もオンラインでのご参加をよろしくお願ひします。

### 〔レイバーフェスタプログラム〕12月26日（土）

- 10.15 ドキュメンタリー映画『雄叫び—気候変動へのたたかい』  
(フランス・2016年・1時間40分)
- 12.00 公募川柳発表 (乱鬼龍)
- 12.15 休憩 (45分)
- 13.00 音楽 川口真由美ほか

14.00 映像+トーク《ニッポンの今》

- 1, フクシマの今『フィーネ 2-2-A-219』(10分)  
トークショー (20分) 中筋純 (制作者) + 堀川夫婦 (避難者)
- 2, 『強制送還』(山村淳平 20分)
- 3, 『バスドライバーの憂鬱』(北穂さゆり 20分)
- 4, 『メトロレディーブルース5』(ビデオプレス 20分)

15.45 休憩 15分

16.00 3分ビデオ一挙上映 (10本+α)

16.50 終了

■別会場で17:30から「大交流会」を行います。飲食代実費。

### ——演目紹介——

★ドキュメンタリー映画『雄叫び—気候変動へのたたかい』(フランス「フォーカス21」制作)

気候変動は今や地球の大問題。フランス・バスクのBizi (環境と社会正義の活動団体) は、2015年のパリCOP21 (国連気候変動会議) へ自転車で抗議活動に出発する。それは世界の在り方を変える運動として、世界中から集まった人々と合流した。「雄叫び」はパリの空に轟く。一方、環境破壊を続ける企業に金を出す金融。それに抗議して、パリの銀行の椅子

&lt; 2 p 上段に続く &gt;

## ★レイバーネット秋期合宿案内 (11/21 ~ 11/22)

ことしもレイバーネットの合宿をやります。日程は11月21日（土）午後～22日（日）昼まで。場所は埼玉県毛呂山町にある「SCAT セミナールーム 毛呂分室」です。都心から1時間半のところまで最寄り駅は東上線「武州長瀬」。30～40人入る上映室が2部屋あり、宿泊設備も揃っています。自然豊かで近くに温泉もあります。参加費は2000円ですが、一品持ちよりで、宿泊者はシーツ持参のこ

と。内容は「写真勉強会」「川柳講座」「映画鑑賞会」などの企画が寄せられていますが、あとは当日のお楽しみ。バーベキュー、自然観察会もあります。秋の一日、一緒に楽しみませんか？ 幹事は夏の「ビアパーティ」を成功させた名幹事の乱鬼龍さんです。

申込みページ <https://labornetjp.jimdofree.com/gashuku/>



< 1 p 上段から続き >

をセーヌ川の橋の上に並べてしまった。彼らの怒りは私たちの怒り。地球は命そのもの。もう一つの世界は可能だ！

### ★日本初公開〔監督からのメッセージ〕

私たちは、公平な貿易（フェアトレード）に取り組み、日本の地産地消による提携システムに触発されたフランスの AMAP 運動（農民農業維持協会）を取り上げてきました。今回、この喫緊な気候変動問題を扱った『Irrintzina』（バスク語で＜叫び＞の意味）を日本で上映できることをとてもうれしく思っています。この映画が日本の活動家へ着想を与え、欧州の気候変動や社会正義の運動と絆を作ってくれたら、願ってもないことです。この映画は、気候変動の緊急性を描いた映画であるだけでなく、今日、私たちがいかに社会に関わるべきかについての映画です。世界が変わるために、どう行動すればいいのでしょうか。上映会の成功と皆さんの反応を楽しみにしています。（「フォーカス 21」 サンドラ・ブロンデルとパスカル・エンヌカン）

### ★音楽：歌をあきらめない！歌をあきらめない！！

出演 ジョニー・H・尾澤邦子

特別ゲスト 川口真由美

京都在住のシンガーソングライター。障害者施設代表。3人の子どもを育てるシングルマザー。戦争反対・護憲・反原発・沖縄基地建設反対などの運動に参加しながらメッセージを込めた演奏を行い、連帯を続けている。悩み、葛藤しながら紡いできた詩とメロディーの力強さは、肩を寄せ合いながら生きる多くの人々の心に響いている。「戦争の悲しみから生まれたのが憲法9条なら、私は憲法と平和といのちを歌っていく」「戦争の為に子どもを産んだのではない。その一点で母親たちは連帯できる」と歌で想いを伝え続けている。「ドキュメンタリー映画『レジスタンスなう！ーこの歌は届きますか？』で、アジア国際映画祭新人女優賞受賞。

### ★ニッポンの今「映像＋トーク」

●『フィーネ 2-2-A-219』（2020年・10分・中筋純）  
原発事故から9年。被災家屋の解体が進む福島県

浪江町で、カメラは一軒の解体現場に密着する。撃ち抜かれる壁、破られるガラス、へし折られる大黒柱。家族の思い出が詰まった「家」が、番号を振られた「解体物件」になる不条理を写し込む。フェスタでは、制作した中筋純さ



きた記録です。初公開。

んと撮影を依頼した堀川文夫・貴子さんが登壇します。司会＝堀切さとみ。

●『強制送還～終わりなき入管の暴力』（2020年・20分・山村淳平）  
難民申請者や非正規移民は、外国人収容所での収容と仮放免をくりかえしている。収容されても、仮放免中でも、いつ本国に強制送還されるのか、わからない。彼/彼女らは、不安と恐怖の日々をすごしている。そして、事前告知もなくいきなり強制送還される。イラン・スリランカ・ベトナムでの現地調査も加え、「知られざる強制送還」の実態を描いている。初公開。

●『バスドライバーの憂鬱』（2020年・20分・北穂さゆり）  
「パワハラ新法」が今年6月に施行されました。しかしこの法律は不完全なものと専門家は指摘します。さらに身近にパワハラ問題が起きたことから取材を進めると、被害者である平凡なバスドライバーを心底憂鬱にさせたのは、むしろ「パワハラを解決したくない社会制度」かも・・・ということが見えて

きた記録です。初公開。



きた記録です。初公開。

●『メトロレディーブルース5』（2020年・20分・ビデオプレス）

東京メトロ売店で約10年間、働いてきた契約社員の女性たち。しかし待遇は同じ仕事の正社員の半分だった。裁判を起こして6年、今年10月最高裁が下した判決は高裁判決（4分の1退職金を認定）をもひっくり返すものだった。しかし彼女たちはあきらめない。非正規2100万人の思いを背に「差別撤廃」をめざす新たなたたかいに踏みだした。初公開。





## ＜各プロジェクト活動報告＞

### ●レイバーブッククラブ：オンラインの効用

ブッククラブは、第21回(6・27)『武器としての「資本論」』(白井聡)を始めてオンライン開催として以降、22回(8・1)『給食の歴史』(藤原辰史)、23回(9・26)『ルポ つながりの経済を創る』(工藤律子)とオンラインで続けてきました。おかげで広く各地(ソウル、京都、岡山など)からの参加がえられ、また出版社編集部の方も加わり活発な議論ができるなど、オンラインならではのプラスがありました。

読書会は、直接顔を合わせて話をするのが、もちろん望ましいのですが、オンラインなら遠方からも参加できるといういい面もあり、差し当たりこのまま続けようと考えています。

次回24回(10・31)は『人新世の「資本論」』(斎藤幸平)を取り上げます。この本には、「社会的共通資本」(宇沢弘文)、スペインの「労働者協同組合」、〈「資本論」を今どう読むか〉などこれまで読んできた本と重なる問題も数多く、改めてまとまった議論ができそうです。(志真秀弘 10/30 記)

### ●レイバーシネクラブ

シネクラブ定例会では8月に山田洋次監督の『たそがれ清兵衛』、10月には宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』をとりあげた。どちらも王道。当然劇場でみたという人も多かったが「皆の感想が聞いてみたいくて」。コロナですっかりネットフリックスが定着したが、討論に飢えている人も多いのだ。山田ファン、宮崎ファンの初参加者もいて「山田洋次は女性への視点がいい」「宮崎アニメは動きや表情に尊厳を感じる」と熱の入った討論になった。

どちらも公開されたのは20年近く前だが、まったく色褪せていないどころか、現在の日本社会を見通したかのようなメッセージにあふれていた。木下昌明さんは『千と千尋の神隠し』に登場するカオナシという妖怪を、自分の言葉を持たぬ菅総理そっくりだと評した。この20年で「忖度」「同調圧力」が

社会に浸透したが、それだけに、自分で考えて生きることの大切さを二つの映画は伝えているのだ。名作だった。

シネクラブでは木下さん推薦の作品をとりあげることが多いが、メンバーからのリクエストもけっこうある。そこで1泊2日の秋期合宿(11/21ー22)を計画した。「これを皆で観たい」というイチオシを携えて、秋の夜長、ぜひ毛呂山へ!

### ★知ってほしい獄中者の生活と思い

#### 『救援川柳句集』が発刊される 乱鬼龍

「ゴクイリイミオーイ」という「電話番号」で、知る人は知る「救援連絡センター」の機関紙「月刊救援」紙上に、川柳を募集し私が選んできた。このほど2009年から2020年までの句を選んで『救援川柳句集』を世に出すことにした。「死刑囚あなたに夢はありますか」「獄中でたった一人のデモ行進」など約400句が収録されている。シャバに生きている私たちには、ほとんど縁のない獄中の人たちが、日頃、どんなことを思っているのか、あるいは、どんな毎日を生きているのか。獄中者の一句一句の中にこめられ、表現されている。

「その国の人権のレベルは、その国の監獄の実態を見ればわかる」という言葉があるが、これらの川柳の中に、それが表れていると思う。おそらく、獄中者のこのような川柳句集は初めてであろう。ひとりでも多くの皆さんに読んでいただき、「獄中」と「獄外」を結び、「人権低国日本」の現実を直視し、その根底からの変革をめざす一つの力になれば、この句集を世に問うた意味と意義はあると思う。

2020年10月10日発行。一冊500円(送料3冊まで180円)。レイバーネットで取扱い中です。



### ★レイバーネットTV 第153号放送～とうてい納得できない二つの話

今回10月21日のレイバーネットTVは「胸が悪くなる話と胸が痛くなる話」、そして2つとも「この世にこんなことがあってよいものかと納得できない話」

労働組合が賃上げを要求、ストライキしたら組合員が逮捕された関西生コン事件。労働組合が存在する第一義は賃上げではなかったか? 労組が労組の仕事ができないなら一体何をすればよいのか? ゲストは全日建本部書記長、小谷野毅さん。自作自演の妨害工作やら、それを見ているだけの警察の話聞いた。

特集は労働契約法20条関連裁判の行方。ゲストはレイバーネットTVおなじみメトロコマースの4人と均等待遇アクション21の柚木康子さん、ジャーナリスト竹信三恵子さん。非正規は仕事ができ



きないと言わんばかりの最高裁判決。このままでは同一労働同一賃金は絵に描いた餅だ。メトロコマースの切実な訴えを聞くと、非正規社員の働きぶりをあんな見たのかと裁判長に詰め寄りたくなった。「最高裁は人権の最後の砦」と声を震わせた非正規労働者の声を聞こう。(北穂さゆりの出演後記)

## 新会員紹介

### ●外国人とマイノリティ問題に関心 松本浩美

レイバーネットの皆さん、初めまして。松本浩美と申します。東京在住、フリーランスで校正・執筆に従事しております。収入源は社史の執筆、商業印刷の校正ですが、外国人とマイノリティの問題に興味を持ち、外国人労働者、入管、朝鮮学校、ヘイトスピーチなどを細々と取材しております。この夏は、移住連と反貧困ネットが展開する、コロナ禍で生活困窮する外国人へ支援金を支給するプロジェクトにもほんの少しかかわらせていただきました。関東圏内の外国人コミュニティには足を運んでおりますので、コロナが収まったら、レイバーネットの皆さんとツアーなどできたらうれしいと思います。よろしくお願いいたします。

### ●デモ・リサ（民主主義研究所）をよろしく！ 山河進

今年入会の山河進です。「民主主義研究所」（デモクラシー・リサーチ。略称「Demo-Rese」）の宣伝係をしています。研究所長は森正孝氏、映画「侵略」上映委員会のリーダーです。天皇の軍隊がアジアでやったことを調査し、記録（映像化）し、のちの世代に伝える運動をおこなってきました。目下、YouTubeの配信をやっています。所長はレイバーネットの松原明さんとは古くからのお友だちかどうかっています。オンライン配信の大先輩であるレイバーネットの活動から多くを学びたいと思い、入会させていただきました。みなさまも是非ごらんください。「ユーチューブ 民主主義研究所」と入れると、出ます。何卒よろしくお願い致します…m( )m

### ●出版争議に関わってきました 三角忠（みすみただし）

1968年三一書房入社。ユニオンショップ協定により労組員。すぐに組合活動。当時の差別賃金＝職種給（等級号俸制）廃止、年齢給体系賃金実現に尽力。同時に「労務提供は社員労働力とする」労働協約の抜け穴として放置されてきた非正規労働者の待遇改善に取り組む。一方、70年光文社闘争をはじめ出版各争議にかかわる。98年悪質労務屋介入し組合つぶし攻撃。懲戒解雇、本社ロックアウト。これを打ち破り朝霞倉庫ともども宿直職場防衛闘争貫徹。2006年解雇撤回・原職復帰で争議解決。私自身は定年を過ぎていたため退職。すぐに「編集工房朔」起ち上げ。一方、長年の反弹圧闘争を闘ってきた経験を活かし関西生コン弾圧に反対し闘う。

## INFORMATION

### ＜いま国鉄闘争が注目されている！＞

国鉄分割民営化がされたのが1987年で、1047人の国鉄労働者が解雇されたのが1990年。それからちょうど30年経った。

その長期の争議は、2010年に解決をみたが、国鉄闘争を日本の労働運動史のなかで検証する作業が、改めて進んでいる。とくに大著『戦後史のなかの国鉄闘争 [1987年～2010年]』（森健一 著）が発行されたことが大きかった。1990



年からの30年は、日本に新自由主義が浸透し、社会が大きく変貌した時代でもあった。「国労をつぶし社会党をつぶし総評をつぶす。そして九条改憲をする」と豪語した中曽根元首相は2020年に亡くなったが、かれの敷いた路線の上に私たちはいる。労働者を大量に解雇した人間に勲章があたえられ、国葬まで行われた。なにかが大きく間違っているのである。

いまこそ国鉄闘争とは何だったのか？ そこからどう前に進んだらいいのか？ その手がかりになるのが『戦後史のなかの国鉄闘争』とドキュメンタリー映画『人らしく生きよう～国労冬物語』。そうした気運のなかで、きたる11月23日、東京・文京区民センターで、「憲法を考える映画の会」主催（レイバーネット協賛）で『人らしく生きよう』上映会と森健一さんトークのイベントが決まった。ぜひ成功させたい。

### ＜「あるくラジオ」が好評＞

しまひでひろさんとささきゆみさんがパーソナリティを務める「あるくラジオ」が好評だ。ラジオならではのじっくり話を引き出せるメディアで、レイバーネットTVとは違った味を出している。6月20日の第11回は「今こそ川柳の出番ですー乱鬼龍さんに聞く」、9月5日の第12回は「時代に挑み時代と生きる～映画批評家・木下昌明さんに聞く」、10月25日の第13回は「地域をつなぎ社会をカエル～東京・小金井市議 片山かおるさんに聞く」。皆さんレイバーネットの会員だが、それぞれの活動の原点を知ることができる。

12月1日の第14回には、『アリ地獄天国』をつくった土屋トカチさんが登場する。「あるくラジオ」で検索してください。

## レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円  
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 570名

ウェブアクセス 1日 6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本  
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所  
普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org  
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578